

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を把握し、その事実に向けて取り組んでいる。ご利用者が安心して暮らしていける支援がなされており独自の理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関内に理念の掲示があり、日々の業務の中で確認しながら理念の共有が出来ている。毎月1回のミーティングで日頃より意識付けをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	誰でもいつでも見られる様に玄関に掲示している。入居時にご利用者・家族の方に説明し理解して頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者と職員は周辺の散策や外出時に近隣の方と挨拶を交わし外来者の訪問も歓迎している。		今後、施設内のイベント等にも地域の方々に参加の呼びかけをしていき、参加して頂くことで地域交流を深めていきたいと考えている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等に積極的に参加するまでには至っていないがクリスマス会等の行事に地域の方にボランティアとして参加して頂き交流を深めている。常に地域交流を意識している。		地域密着型サービスとしてのグループホームの存在を知る為に運営推進会議を活用し、地域の情報やホームの情報を交換しながら地域の一員として役割を担って行きたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者福祉に関するパンフレットを置き、相談を受けている。		地域の研修等に参加して近隣の高齢者の方に声掛けし施設内でのコミュニケーション場となるようケアサービスに努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点を職員全員で話し合い改善に向けて取り組んできた。		自治会長・民生委員・包括支援センターの方々の提案等を即座に検討し、地域での行事に参加する様にしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営会議を実施している。会議では行事、防災訓練等のご利用者の様子、生活などを分かりやすく説明している。市・自治会長からの意見、アドバイスを頂きサービスの向上に活かしている。		市民センターや包括市民センターへ出向き、情報交換を行っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の場は設けていないが、問題点等があれば市役所に出向くかの連絡を取り、相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等の紹介や説明を行い活用できるようにしている。外部評価に参加して伝達している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受講して職員同士の意識を高めることにより、虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をご家族に説明し、読み合わせをしながら確認を取っている。理解出来ない事や疑問があればその都度納得して頂くように説明をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に家族の意見も聞いている。外部者による家族アンケートを年1回出している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族は多いが、職員は必ず顔を合わせてご本人の状況報告を行い、体調の変化等はその都度連絡している。預かり金の金銭管理に関しては預かり帳にサインをして頂いている。		毎月、家族の方に施設内の生活状況報告ということで、担当者を決めて家族通信を作成し、郵送している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望などを担当職員が聞き取り、連絡ノートで申し送りを行い、情報の共有化を図っている。運営会議には家族の参加を呼びかけ、出席して頂ける様に取り組んでおり、家族が率直な意見や希望・要望を言って頂ける機会として捉え、運営推進会議での家族の意向の把握などを行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスに運営者は必ず出席して意見は聞いている。意見交換の場として話し合い検討している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて対応出来るように体制を整えている。又、緊急時は必ず管理者へ報告するよう職員間に徹底している。各職員に連絡網で連絡を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者との馴染みの関係が更に深くなるように固定化したが、夜間・緊急時に備えての対応が必要な為に全フロアの把握も必要となるので時々移動して勤務している。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	男女問わず、年齢制限もなく幅広く採用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社外研修に参加したり、社内研修に参加したりして知識を高めている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の年間研修計画により受講している。またスタッフ対象の研修を定期的実施している。外部の研修受講者はカンファレンス会議の時に伝達報告している。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や当所の見学等で交流の機会を持っている。今後も同業者を訪問したりして、ケアに役立つ実践的交流を行う事としている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の意見を聞ける場を設けており、職員のストレスの状況の把握・改善に努めている。		今後、個別面談を行いたいと考えている。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	休みの希望は、各職員の希望に添えられるように、個人の負担とならないよう勤務配置している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご主人・ご家族に対し、病院等に出向いてお話を傾聴し、意向にあったサービスを提案させて頂く。グループホームの1日の流れを安心して頂けるように説明している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度もお話を傾聴して困っていること等をお聞きして良く話し合い入居に結びつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況提供表や生活歴チャートを職員全員が把握して必要なケアサービスに活かす。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にご利用・ご家族とサービス担当者会議を開いて情報を得ている。又、ご本人、家族の方が見学に来られて雰囲気を楽しんで頂いたり、入所体験も実施し、納得の上、入所して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に沿って一人ひとりの自主性や尊敬を持ち、利用者から多くの事を学びながら穏やかに過ごしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員が日々の生活の中での気づきにより、一人ひとりの持つ力を最大限に活かして生活が出来るよう支援する。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られる家族は多く、お部屋で楽しいひとときを過ごされている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と職員で季節に応じた手作りの作品を創作して飾っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯物を取りに行ったり、たたんだり、個々に合わせ家事のお手伝いをお願いしている。毎日の新聞を読みながら話題作りをしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もしっかりと電話連絡をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の会話や行動を把握して日々の生活のシグナルを感じるように日頃からゆっくりと会話を持つように心掛けている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供表や生活歴チャートを職員全員が把握してケアサービスに活かす。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日によって出来る事、出来ない事があるので見守りながら関わっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や家族の意向した具体的な個別計画をたて、計画に沿った実践が行われ、定期的に評価している。	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や変化に対する計画を見直し家族にも説明し確認を得ている。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートに記入し、随時状況を記録している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の通院同行を行っている。医療連携を取っており、緊急時の対応の配慮も行き届いている。		
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア等が見学に来られる。		2ヶ月に1度、地域の市民センターよりボランティアの方が来られ、手品・ハーモニカ演奏等をして頂く。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月の病院受診の為に病院・ヘルパーステーション・居宅介護支援事業所とは、電話などで情報交換を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センター主催の学習会に参加したり運営推進会議時にアドバイスを受けていたりしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。又、常勤の看護師も配置している等、ご利用者の健康管理に十分な体制が出来ている。		月に1度は健康情報提供書をかかりつけ医に提出し、返答及び捺印を頂く等をし、医療連携を図っている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご利用者に同行して診察後に先生より説明を受けたり、相談したりしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師が健康管理をしており早期発見に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	電話での情報交換や状態把握の為に面会等を行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢化と基礎疾患がベースにあるリスクの高い利用者はかかりつけ医と密に連絡をして家族を含めて話し合っている。先生の指示や説明内容はシートに記載して申し送りして伝達して共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員全体で重症化に備えての知識が必要であり学習会を重ねている。出来る事は状態観察をして的確に主治医に報告して指示をもらう。急変時の対応と緊急時の連絡を素早くしている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や他の施設へは、電話や文章で情報交換している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解に努め、プライバシーには十分配慮し秘密保持の徹底が図られている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の気持ちを理解して自由で自主的な生活が出来るように支援する。シュミ等を活かせるように働きかける。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールを決めずに、ご利用者状態に合わせて柔軟に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容の方にカットして頂きパーマを希望される方は美容室へ同行している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者主体で職員と一緒に食事作りを行っている。会話をしながら管理者・職員と一緒に食事をしている。食事の準備や後片付けも行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御家族の方がおやつ・飲み物を御持ちになり居室で一緒に召し上がっている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日の排尿パターンを把握してトイレ誘導を行っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆとりのある時間設定をして入浴中は介助又は見守りにより安全面と羞恥心への配慮も心がけている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠の原因となる1日の流れや行動を把握して活動を増やしたり昼寝は避けるなど、考慮している。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、廊下、居室の掃除等利用者の残存機能が維持できるよう、役割を見つけて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理している方もいますが、ほとんどの方が家族やグループホームで管理している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の方が見えて気軽に外出されている。本人の希望により天候の良い日は外出や買い物に出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	決まったスケジュールはないが当所の周辺の探索を疲れないう程度で出かけている。地域の方の入所のほうが多く本人の希望に沿って外出をしている。		誕生日には、家族と一緒に外食を勧めている。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人や家族の希望に応じ電話が出来る。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように昼間は施錠せずに開放している。来所時は、お茶をお出ししてゆっくりと居室で過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないという認識のもとで全員が取り組んでいる。勉強会で身体拘束廃止マニュアルの読みあわせをしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者を見守り、日中は玄関の施錠はせず自由に出入りが出来るようになっている。内ドアには、ベル・玄関には、センサーを設置している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は食堂兼居間で見守りやすい場所において安否の確認を行い、夜間は2時間おきの巡回を行い安否の確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	くすりのや洗剤は手の届かない場所に保管。包丁は、夜間詰所の箱に保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を防ぐ為にヒヤリハット・事故報告書にコメントを書き職員全員が意識を高める為に目を通して捺印している。		避難訓練に関して、1年に1回消防署の協力にて訓練指導して頂いている。
72	い 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生に備えてマニュアルを作成して勉強会で心肺蘇生法等のシュミレーションを行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行っている。夜間想定訓練も実施している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に日頃の状況を伝えているが状況の変化に伴いリスクの高い利用者の家族にはその都度説明して対応している。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェック、状態観察を行い発熱、排便、食事量の変化があれば速やかに看護師に報告している。また、看護師は状態観察をして把握している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず手に渡すか、内服の介助をして飲み込むまで確認してシートに記入している。薬効や服薬量を把握できるように一覧表にしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず運動や水分補給を心掛けている。頑固な便秘に関しては先生の指示にて内服でコントロールしている。		排便チェックシートにより、回数、便状態を記録し管理している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	感染防止の為、1日3回毎食後口腔ケアを施行。義歯は1日1回洗浄し、口腔内を常に清潔に保っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立表に1日のカロリーが明記しており、カロリーを把握している。又、1日の水分量は印推量としてトータル量を記録している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・後利用者共に手洗い・含そうの励行。インフルエンザの予防接種はほぼ全員が受けている。感染症に対する知識を持つ為に勉強会を行っている。		インフルエンザに関しては、北九州市保健福祉局介護保険課よりの資料を常に公開し、職員は読む様にしている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は、30分キッチンハイターにつけて消毒しており、天日干ししている。食材はすべて火を通している。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からもわかりやすく、木製の看板や花壇が暖かいイメージ。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろげる和室がゆったりできる。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・和室・居室へ行き来が出来て自由に会話できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた使い慣れた生活用品、家具などを持ってきて頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	皆様に声掛けをして、冷暖房の温度設定を適宜行っている。		毎朝、全室の窓を開け、空気の入替えを行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・非常口は、安全な移動が出来るよう手すりを設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレがわかるようにドアに張り紙をしている。また居室には、表札・顔写真を貼り飾り等もしている。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯干しや散歩を毎日、入居者の方と行っている。畑があり、草取りや畑仕事を一緒にしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

心身の変化、異常発生時に備えて全職員が疾病に関して学習会で知識を学んでいる。また、早期発見に努め、家族・医療機関との連携を持ち、早期に対応している。地域と連携を取り、地域の行事に努めて参加している。ご家族とも密に連絡を取り、地域のボランティアの方々にも声掛けし、グループホームに来て頂いている。